

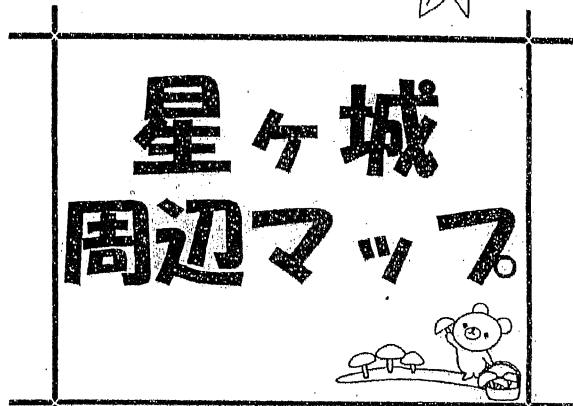
至 三笠山
寒霞溪

いち きど おもてもん
一の木戸 (表門)

ほしがじょうじんしゃ
星ヶ城神社
★佐々木徳三郎左衛門尉信胤を祀っている。

一の木戸から攻め寄せる軍勢を食い止めるための溝で、深さは約1.5m、幅19mをはかることができる。

山頂から北側の山腹の降雨を兼ねて貯水する施設で、南より安山岩を敷き詰めた水汲み道が構築されている。



星ヶ城
周辺マップ

小豆島最高の星ヶ城山(けんそ山)には、星ヶ城跡がある。この山は東峰(816.7m)と西峰(804.9m)が400m隔てて並んでおり、この西峰を本城、東峰を詰の城としている。その周囲は大型の断崖帯で取り囲まれており、天険の要害を利用した中世の山城であった。又、昭和38年~46年の8年間、香川県教育委員会を中心に小豆島山城遺跡調査班によって調査され、昭和47年4月27日、香川県指定史跡に任命された。

至 寒霞溪

至 草壁港

日本の最初の書物「古事記」に伊弉那岐(いざなぎ)・伊弉諾(いざなみ)の二神が日本の大八州(おおやしま)について十箇目に「小豆島(あづきしま)」を国生みし別名を「大野手比売(おおのてひめ)」というところ。ここは、この神を祀っている。

東西27m南北27mほどの平坦地で、空濠の堀削によって生じた狭土を盛り上げて造成している。

外敵から身を隠し行動するための防壁で、長さ10.8m、幅4m、深さ1.5mを計ることができる。

804.9
あずきじんしゃ
阿豆枳神社
した からぼり
下の空濠

きょかんあと みず てくるわ
居館跡・水の手曲輪
かじばあと
鍛冶場跡

城を築くために必要な金具や武器を製造するために築いた鍛冶場跡で、多数の鉄滓が散乱していた。

東西26m南北10mの平坦地で排水を考慮して北方がゆるい下り勾配になっており、東峰の居館跡との見通しがよい位置にある。

ひのき 檜の小道

本城の西峰には一の木戸、空濠、土壇、曲輪、居館跡、鍛冶場跡、土塁らしき遺構があります。内海湾や四国側の穏やかな景色が展望できます。

★佐々木信胤

信胤はもともと北朝の細川定綱に応じて京都攻めに加わった勇将であったが、足利尊氏の権臣高士佐守師秋の愛人お兼の局を奪って南朝に転じたと伝えられている。信胤が小豆島へ渡った年号は著書まちまちであるが、1339年保元、3年後の1347年、北軍の淡路守師氏が阿波・淡路・讃岐・備前四か国の大軍をもって来攻し、まる一ヶ月間の合戦の未だ降伏した。

ハコケ風の建物の前にあるのが石室で江戸時代に造られたらしい。ハコケ風の建物は、昭和15年、ある宗家の信者さんAが山小屋を建てて住みながら居た建物で、向のために造られたかは謎なんだ。

東西3.6m、南北5.1mの凹地。緊急時に、集落があった草壁・安田方面との連絡に利用したものと思われる。

真夏でも水が溢れたことがない自然湧水を利用した井戸。

いど 井戸
ふながたいこう 舟形遺構
石が散乱した舟形の区域の中で、長さ6m・幅3mに板状の石が舟べりのように敷かれており、石畳を築くための石の採取場であったと思われる。

この山に直接連なる四方指(五神座丸(ごじがまる))に祀られていた豊受大神等五神(五穀權の神)を移座して奉祀している。

のろたい 祭祀遺構
あずきじんしゃ 阿豆枳神社

じんこういど 人工井戸
深さ5.5m、ほぼ2.5m平方の広さがあり、雨水などを貯水して緊急の場合にそなえたものと考えられる。

きょかんあと 居館跡
西峰の居館跡がよく見渡せる場所では何棟かの建物が建てられていたものと推定される。

ひがし みね
東 峰

東峰の詰の城にも天然の湧水や人工井戸、土塁、居館跡、石室、祭祀跡、舟形遺構と見られる多くの遺構があります。小豆島の最高峰で瀬戸内海の雄大な風景が展望できます。

星ヶ城駐車場から
東 峰まで 600m
西 峰まで (近道) 500m (迂回) 880m

寒霞溪山頂駐車場から
西 峰まで 約1.9km
東 峰まで 約2.3km

